青梅市文化財ニュース

第２７０号

平成２２年４月１５日

発行　青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684　℡0428-23-6859）

御岳山の雪害

雪害による被害の状況１

今年の冬は東京で１０回を越す降雪を観測し､御岳山では４月になるというのに、いまだ日陰に雪が残っています。特に３月９日には６０㎝の積雪があり、幸い人間や建物に被害はありませんでしたが、春の重たい雪のため杉や松に樅(もみ)などが折れ、いまだ山上あちこちに倒木や折れた枝がそのまま残されています。ケーブルカーの架線にも沿線の枝がかかり、復旧は翌日夕方になりました。また、電線に杉が倒れ電柱をも倒しました。山上に送電するか所でしたから､停電していればまさに陸の孤島となり、大変な被害になったことでしょう。

近年では、昭和６１年３月のお彼岸に１m近い雪が降り、多くの杉林が被害を受けました。これは、経済林として成り立たなくなった山が、十分手入れされずにいたからだといわれました。昭和４０年代頃までは、植林後１０年以上毎年数回の下草刈り、木が育つと枝打ち、その後間伐して木の間隔をあけ成長を促しました。しかし、その手入れには時間と労力、なにより危険がともないます。輸入自由化で木の価格が下がると、林業が成り立たなくなり、後継者も育ちにくく、森林業者の高齢化が進み、山の手入れが行き届かなくなりました。今回被害にあった山も、手入れされず樹木の密集した杉林が多かったようです。

御岳山は神社のある山頂が９２９ｍで、青梅市内より５℃くらい気温が低く、市内が雨でも山上は雪ということがしばしばあります。３月になると、標高６００～７００ｍくらいのケー

ブルカー交換あたりが雪と雨の境となる事が多いようです。また、青梅市内が曇りでも、山が雲に覆われているときは、山上に雪が舞っていることがしばしばあります。３月下旬には標高８３０ｍくらいの御師集落が雨でも、神社は雪ということもまれにあります。

山上には業者による除雪車は来ませんので、雪が降ると自治会が招集して、山上住民の奉仕による雪かきが行われます。招集の前には、各自が家の周りの除雪を行い、招集後神社からケーブルカー御岳山駅までの道路の除雪が行われます。また、十数年前よりは山上に指定車両が運行しますので、除雪も軽車両が通れるよう広く行われるため、より大変になりました。登山道は生活道路となり、滝本までの約２㎞半の除雪も、引き続き行われるようになりました。登山道の除雪は、山に出入りする業者にも協力いただき、業者は滝本駅から、住民は山上から除雪を行い開通させます。

数十年前までは、全て人力で除雪していましたので大変な労力でしたが、現在は小型の手押し除雪機が数台あり、主な道路は機械で除雪します。しかし、家が両側に並んでいるところでは、除雪した雪を邪魔にならないところまで運ばなければなりません。また、春の雪は水分が多く、除雪機が使えない場合もありますし、神社の石段は今でも手作業で行われます。そして、機械で除ききれない雪は、雪かきや箒で取り除き、最後に融雪剤を撒きます。これはその後の凍結防止になり、寒冷地の必需品です。融雪剤は都や市から支給されますが、山上住民の協力なくしては、大雪後の生活はなりたちません。

雪害による被害の状況２

今回の雪では、倒れた木や枝の片付けにも人がとられ、一日では除雪が終わらず、二日間にわたり行われました。除雪していると、白一面の雪景色の中、黄色く色づいたか所がそこかしこにありました。よく見ると杉の大木の下で、見上げると花粉をたっぷり蓄えた杉の枝がありました。山上の住人で花粉症の人も多く、その人にとってはとても恐ろしい光景でした。

４月上旬、山上はやっと梅の花が盛りを迎え、カタクリが咲き始めましたが、桜が咲くのは中旬過ぎになり、山の遅い春を告げます。毎年４月２９日に山上で剣道大会が行われますが、十数年前に、桜吹雪と一緒に雪が舞ったこともありました。とはいえ暖冬傾向のためか、ここ数年御岳山でもあまり雪に悩まされなくなっていましたが、今年は違い厳しい冬となりました。

（文責　須﨑 直洋）